

雌雉香炉

この陶器は、17 世紀、陶芸家・野々村仁清が制作した雉の形をした香炉である。雌は雄と同様、上絵付けの技法に優れ、造形も巧みである。1960 年に重要文化財に指定された。

仁清は、窯の中で酸化する銀の絵の具を使って、虹色に輝く褐色と灰色の羽を描き、本物の雉の雌の色に近いグラデーションを表現している。頭部には、赤と金の肉垂と、まぶたの周りにほんの少し青を入れるという、芸術的な工夫が施されている。いずれも「色絵」と呼ばれる上絵付けの技法である。

雉の体の造形も高度な技術を要する。この長くまっすぐな尾は 45 度の角度で上がり、首は背中に向かって滑らかな弧を描き、まるで羽繕いをしているように見える。粘土が収縮したり、ゆがんだりする窯の中で、このような正確な形を作り出すには、相当な才能と経験が必要である。

仁清の優雅な焼き物は、公家や武士階級が茶の湯や茶道具として好んで使用した。実際、雉香炉を含め、現存する多くの作品が茶道具である。